

平成29年度 日本語教育能力検定試験 解答例

千駄ヶ谷日本語教育研究所

試験 I

問題1	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	2	5	4	5	2	1	2	1	3	3
	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					
	5	3	5	3	1					
問題2	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)					
	4	1	3	1	4					
問題3	A					B				
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	1	2	2	4	3	3	4	2	2	1
	C					D				
	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)
	2	1	1	4	3	1	1	4	3	3
問題4	問1	問2	問3	問4	問5					
	3	4	3	2	2					
問題5	問1	問2	問3	問4	問5					
	3	2	1	2	2					
問題6	問1	問2	問3	問4	問5					
	1	2	1	2	4					
問題7	問1	問2	問3	問4	問5					
	3	1	2	4	4					
問題8	問1	問2	問3	問4	問5					
	1	1	3	3	1					
問題9	問1	問2	問3	問4	問5					
	2	4	3	4	2					
問題10	問1	問2	問3	問4	問5					
	3	2	1	4	2					
問題11	問1	問2	問3	問4	問5					
	4	3	3	3	1					
問題12	問1	問2	問3	問4	問5					
	1	4	4	3	3					
問題13	問1	問2	問3	問4	問5					
	1	2	3	1	4					
問題14	問1	問2	問3	問4	問5					
	3	4	2	3	2					
問題15	問1	問2	問3	問4	問5					
	3	1	3	2	4					

試験 II … 略

◆ この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

試験Ⅲ

問題1	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	2	3	3

問題2	問1	問2	問3	問4	問5
	2	3	3	4	1

問題3	問1	問2	問3	問4	問5
	2	4	2	3	1

問題4	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	3	2	3

問題5	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	1	2	4

問題6	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	2	4	1

問題7	問1	問2	問3	問4	問5
	4	4	4	4	1

問題8	問1	問2	問3	問4	問5
	2	4	4	2	3

問題9	問1	問2	問3	問4	問5
	1	1	3	2	3

問題10	問1	問2	問3	問4	問5
	1	4	4	3	1

問題11	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	1	1	4

問題12	問1	問2	問3	問4	問5
	1	1	3	1	3

問題13	問1	問2	問3	問4	問5
	2	3	4	2	3

問題14	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	4	4	2

問題15	問1	問2	問3	問4	問5
	2	4	1	1	2

問題16	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	2	1	1

◆この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

試験Ⅲ

問題17

【解答例1】

この教師の言う日本語能力試験におけるレベル別の語彙表とそれに基づく教材やテスト作成は基本的には賛成である。試験合格を目的とした場合、レベル別の語彙表があれば、学習者は合格の目安となる各レベルの語彙や語彙数を知ることができ、具体的な目標設定にも役立つ。また、教師は学習者の理解度や習熟度に合わせ、難易度を調整した効果的な授業ができるメリットがある。ただし、このコースは大学進学が主目的である。大学進学コースでは試験対策はもちろん、大学進学後を見据えた学校生活で使える日本語、Can-doを意識したカリキュラム編成が重要である。つまり、運用力も身につけなければならない。そこで、語彙表は日本語能力試験合格の目安として使用し、その語彙の使用場面の提示など、Can-doを意識した教材作成を行う。そして、語彙の定着、および、使える日本語の習得を測るためのテストをし、強化したい。よって、基本的にはこの意見に賛成である。(395字)

【解答例2】

この意見に賛成である。レベル別の語彙表があることは、学習者にも教師にもメリットがある。学習者のメリットは、学習の到達点が確認できる、学習過程における現段階がわかる、学習計画が立てやすい、ということである。教師のメリットは、到達点に至るまでのアドバイスを学習者にしやすい、語彙表に基づき教案、教材、テストなどが作れるので、教育の計画が立てやすい、ということである。レベル別の語彙表のレベルについては、大学進学コース全体の学習段階の中で位置づける。なぜならば、語彙力はコースの目的を達成するための、一部の能力にすぎず、文法、談話構成能力などそれ以外の能力も必要だからである。また、その学習段階はCan-doで示す。語彙などの言語要素の数で示すよりも、日本語で何ができるかが明確になる。日本語能力試験の認定の目安もCan-doである。コースの学習段階がCan-doであることで、学習者は日本語能力試験のレベルを、コースの学習内容と関連づけて把握することができる。(410字)

◆この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

◆今年度の試験についての感想◆

出題された問題は、分野に隔たりがなく、基礎項目とされる分野が幅広く問われている。ただ、基礎項目ではあるものの、深く詳しく勉強しなければわからない問題があることは、毎年変わらない。このような問題には、そこまで覚えなければならないのかと受験生から毎年ため息がでる。

このところよく問われる問題もある。「ポライトネス」は、3年連続、日本語教育史は2年連続出題されている。その他、教室談話の「IRE/IRF型」、「やさしい日本語」、「ダイクシス」、ペリーの異文化適応のストラテジーである「統合、同化、分離、周辺化」なども問われている。初めて問われたものは、動機づけのモデルであるケリーの「ARCSモデル」である。この「ARCSモデル」は教育現場にとっても役立つ動機づけのモデルであり、良問と言える。

どうしてこの分野が問われるのかと思われる問題はほとんどない。したがって、基礎項目を広く深く学び、過去問題を解くという、対策の基本をしっかりと行っていた受験生にとっては、確実に答えられる問題が多かったのではないかと思う。